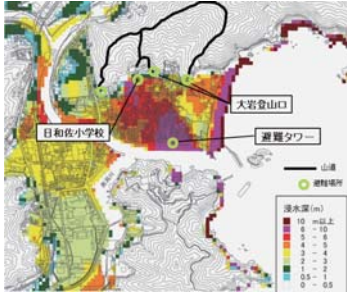


プロジェクトの背景と目的

現在、南海大地震・津波対策が早急に迫られている。しかし、地域住民の意見や景観を考慮されていない構造物（津波避難タワー）が設置されている。また、災害対策においてハード対策がなされているが、建設されるだけでなく、ソフト対策などを利用することで普段からの防災意識を高めていくことが重要である。普段からの住民自らの防災活動が非常時の防災を強化させていく。

最大津波浸水高さ



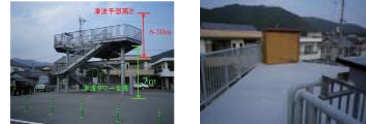
日和佐の現状

日和佐の人口 7815人 (2011年5月現在)
 高齢者の人数 3175人 要介護者 712人

現在、日和佐の住民の防災に対する活動意識が薄く、少子高齢化も進んでいる。



津波タワーの現状



徳島の津波タワーは計7基。日和佐には1基ある。しかし、県内にはタワーを超える津波高が予想されている。また、現在では一時避難の機能しかなく、普段は誰も利用していない。これは、スペースの無駄になっているだけでなく住宅街の景観を阻害している。

- ・避難場所や経路の確保
- ・防災はもちろん地域の活性化などの効果
- ・住民自らが維持できるシステム

方法と結果

アンケート調査

- 質問事項
- ・避難に関して
 - ・津波発生時どこに避難するか
 - ・避難方法は何か
 - ・ほしいと思う避難場所

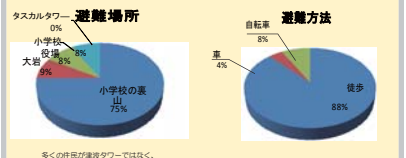
- 津波に関して
- ・津波の到達予想時間を知っているか
 - ・日頃から行っている津波対策
 - ・災害に対する、危険意識

- 津波タワーに関して
- ・津波タワーを知っているか

実施目的：日和佐の防災について、住民に直接聞くことで確かな現状を知る

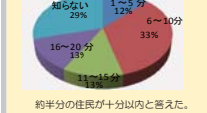
実施日：11月14日(月) 1月15日(日)
 実施場所：美波町日和佐地区
 対象者数：住民による無償調査
 回収数：53世帯

美波町役場、日和佐小学校へのヒアリング現地調査



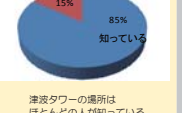
多くの住民が津波タワーではなく、小学校の裏の山に避難

津波到達予想時間



約半分の住民が十分以内と答えた。

津波タワーの場所



津波タワーの場所はほとんどの人が知っている。

- ・沿岸部から避難所までは、住宅が密集しているあわえ(狭い路地)が多く人が殺到したり建物が倒壊し通れなくなり避難が困難になると予想される。
- ・避難タワーへ避難する人が全くいない。
- ・歴史ある街並みや風習があり、観光スポットが集まっている。

……etc

これらを考慮した魅せる防災まちづくりを提案する。

提案1

避難経路の確保

- ・アンケート結果により津波タワーへの信頼性が低く、実際に逃げる人がいないことが分かった。
- ・海近くの住民や漁港近くの人は避難場所である山道まで遠く、またそこまでの道はあわえと呼ばれる狭い道で、地震による建物の倒壊で通れなくなる可能性があり住民も不安を感じている。

津波タワーに代わる避難場所が必要。

方法

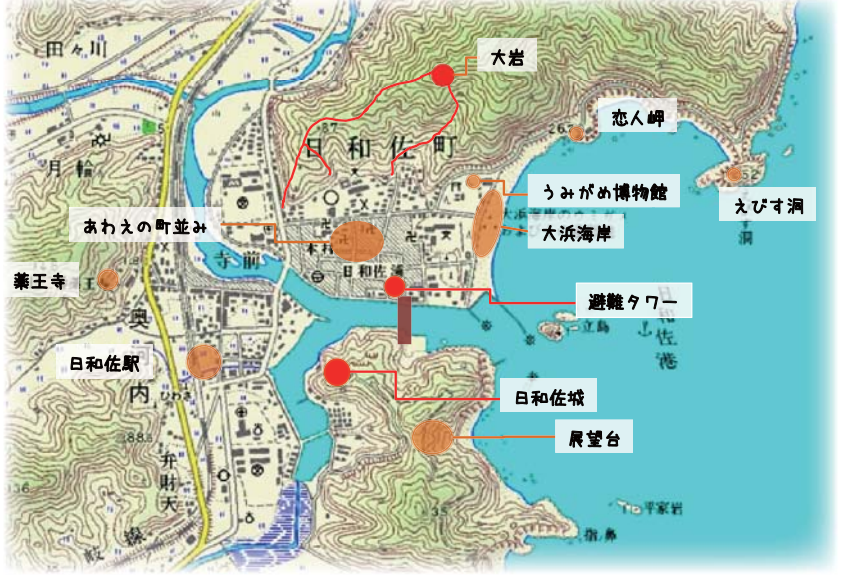
回転式の橋をつくる



奥に漁港があるので、橋は一部回転式を用いる。跳開式では、電力が必要なので、非常時に動かせない場合がある。回転式にし、いざという時には手回しにも動くようにする。

効果

- ・沿岸部の住民が日和佐城に避難できる
- ・観光の周遊性も期待できる
- ・船の出入りにも支障が出ない



提案3

避難タワーの有効活用

- ・アンケートでは、避難タワーを利用するという人はほとんどいない。
- ・避難も困難で非常用の一時避難場所としてのみで、普段はスペースの無駄となっている。

方法

津波タワーの下を東屋にして、住民が気軽に集まれるようなオープンスペースとして普段から活用する。高齢者の憩いの場や漁師の休憩場所として活用していく。



提案2

避難路の維持と意識化

遊山の利用

方法



遊山とは、徳島県内の伝統的な風習。橋の筋目に遊山箱と呼ばれる箱にお弁当やお菓子を詰めて家族で野山に出かける。
 大岩周辺に観賞用の花桃を植えた広場を設け、遊山ポイントとして印象づける。
 大岩へと続く遊歩道を遊山のルートとして利用してもらい、大岩からの絶景を家族で楽しんでもらう。

効果

- ・避難場所に指定されている大岩へ遊山をすることで避難場所や避難経路を住民たちの記憶に残せる。
- ・伝統文化の継承することに繋がる。
- ・遊歩道の維持にも繋がる。
- ・楽しみながら避難訓練ができる。

1. 現在避難場所になっている大岩へ続く遊歩道は場所が分かりづらい。
2. 日頃の整備がなされていない。
3. 住民の普段からの利用がほとんどない。

方法

遊歩道沿いに桜の木を植樹する



山道沿道に桜を植樹する。その際、小学校の記念植樹や住民の寄付として扱い、住民自らの手で管理をしてもらうようにする。

効果

- ・住民全体が桜を管理していき、住民が中心となった遊歩道の整備ができる。
- ・春には避難路に桜の道が見え、山に遊びに行かない人にもそこに遊歩道があるという事を年に一度は思い出してもらえらる。

方法

トレイルランニング



毎年1月下旬に行われている千羽海崖トレイルランニングに私達が考えた橋をコースに組み込む。大岩の山道や日和佐町を通る約5キロを周回する初心者向けコースの部門を設定する。

効果

- ・住民も参加しやすい大会になり、町の活性化にも繋がる。
- ・避難時に橋を利用して日和佐城まで行く新しい道や大岩への山道を人々に認識してもらうことができる。
- ・大会を開催するNPO法人や協力企業や住民によって大会前には清掃活動を行ってもらえる。